

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成23年9月27日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071801213		
法人名	光綾会		
事業所名	グループホーム陽楽	ユニット名	陽楽
所在地	福岡県飯塚市庄司1020-1		
自己評価作成日	平成23年7月31日	評価結果市町村受理日	平成23年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F
訪問調査日	平成23年9月8日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節には蛍が飛び交い鳥の鳴き声が聞こえる自然豊かな場所でゆったりと広く落ち着いた古民家調のホームです。地域からの支援、応援の協力もあり地域住民体育祭や文化祭・バスハイク・いきいきサロンなど地域行事に自然体で参加したりその季節の移り変わりや外出の楽しみなど本人の希望を聞き自宅と変わらないようその方らしく安心して過ごせるよう支援しています。スタッフのまともにも良く開設当初より勤めている者など入れ替わりが殆どありません、又常に向上心を持ち仕事に取り組んでおり、身体面・精神面・知的面など考慮したレクリエーションの検討や個々の気づきやケースカンファレンス行い情報の共有を図り家族との相互信頼と良好な関係を築き「利用者主体」「人格尊重」「自立支援」の実現に向けて日々介護にあたっています

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

飯塚市庄司にある“グループホーム陽楽”は、山や田畑が広がる緑豊かな環境にある。空気が綺麗で、外出は日常であり、四季折々の風景を眺めながら、ゆったりと地域を散策し、つくし採り等にも行かれている。買い物の際は、ご利用者がカートを押しながら職員と買い物をされているが、馴染みの地域の方と話が弾むことも多い。外部評価当日はお天気も良く、ホームの庭で畑仕事をされているご利用者が笑顔いっぱいに出迎えて下さった。庭に植えられている花々の名前も教えて下さり、清々しい気持ちで1日を過ごす事ができた。平成16年、法人理事長の自宅を改修し開設されたホームでもあり、民家の趣きをそのまま残し、見事な梁や昔ながらの欄間などは、“家”にしているような気持ちにさせてくれる。穏やかで優しいご利用者と職員が多く、ホーム長を中心に職員同士のチームワークも良く、常に“何故？”と言う視点を持って、“粘り強く”考える思考ができてきている。23年3月には医療連携体制加算をとり、週に1度の訪問看護師の来訪とともに、24時間、訪問看護師との連絡体制もでき、“安心と尊厳のある生活”を営むことの支援が続けられている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内にいつでも目に付くように掲示しており朝のミーティングや学習会で復唱しています。、利用者様がその方らしく安心して過ごして頂けるよう職員は気付きを話し合い情報を共有しケアの向上に努めている	平成16年10月の開設以来、“住み慣れた地域で家庭的な環境のもと、利用者主体・人格尊重・自立支援を目指し、日常生活の介護を通して安心と尊厳のある生活を営むことを支援します”と言う理念の実践に努めてきた。畑仕事ができる環境を整えたり、散歩の途中に地域の方と気軽に会話ができる関係も築かれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として地域行事や草取り、掃除などに参加したり、近所の方とは気軽に挨拶や会話が出来る環境であり地域の方が草を刈ってくれたり消毒に入ってくれたり、顔を見に来たなど来援される方も増えている	法人理事長の自宅を改装したホームでもあり、地域の会長や近隣の方からの協力が頂けており、行事等のボランティア情報を自治会の方と共有できている。地域の活き活きサロンで知り合った方が自転車で遊びに来て下さり、お茶飲みして帰られる姿も日常で、地域の方から「ここで暮らしたい」という声も聞かれている。	公民館活動や地域清掃などに、ご利用者が参加しているが、今後更に、ご利用者の力を発揮できるような取り組みが検討されている。ご利用者の人生の格言を子供たちに伝えていくなど、地域貢献を続けていきたいと考えられている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方々や家族、関わる関係者の方々から介護サービスについて相談を受けたり、運営推進会議などで認知症に関する勉強会を開催するなどして努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており行事内容や入居者の状況報告、毎回テーマ別の勉強会や問題点等貴重な意見を頂きサービスの向上に活かしている	ご家族は交代で参加して頂いているが、可能である方は参加を増やして頂いている。職員が研修で学んだ内容も報告され、参加者からも「勉強になります。認知症の勉強にもなり、わかりやすいです」と言う意見を頂いた。自治会長等からも、市の方に質問や要望が伝えられており、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月1回午前中の2時間、市の介護相談員に来援していただき事業所の状況や入居者及び職員の相談に第三者の立場から対応してもらっている。又地域包括センター職員にも運営推進会議に出席してもらっている	更新申請時に市役所を訪問しており、日常の中で疑問点がある場合は、適宜、電話等で市役所の方に相談をしている。認知症の方の入院についてや、看取り時の家族の連携についてもアドバイスを頂けており、他の事業所の取り組みなども教えて頂いた。介護相談員の方が毎月来訪し、ご利用者とお話をして下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーを設置しているが管理者や職員は身体拘束にあたる行為を正しく理解しており取り組んでいる。又近所の方も入居者が外でしている事を分かっておられ話しかけてくれたりしてくれる	帰宅願望が強い方には職員も一緒に外出したり、歩行が不安定な方には職員見守りで歩行するなど、安心した生活が送れるよう支援されており、穏やかな気持ちで生活されている方が多い。薬についても医師に相談し、症状によっては薬を中止するなどの見直しも行われており、身体拘束は全く行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会や研修で高齢者虐待防止関連法について学んでおり全ての職員は利用者の尊厳を保ちその方らしく生活して頂く様に配慮尊重している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員が権利擁護について学習会で学ぶ機会を持ち理解を深めている入居者や家族には契約時に説明しており運営推進会議においても話している。過去には成年後見制度の提案、手続きに至った事もある	ホーム内にパンフレットを準備し、入居時にホーム長が制度の説明を行っている。入居後も適宜、制度利用の判断をホーム長が続けており、必要に応じて、再度、ご家族への説明も行われている。職員は、外部研修や本部研修にも参加し、制度の理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改定などの際は入居者や家族の方にも重要事項説明書、利用契約書で十分な説明を行い、疑問点等にきちんと答え、理解を得ている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置しいつでも意見を頂けるようにしている。重要事項説明書の掲示や外部の苦情や要望の受付先も明記している。又、家族会や運営推進会議でも要望を受け付けており、無記名のアンケートなど運営に反映させている	開設以来、ご家族の協力を多く頂いており、ご家族が知人をホームに連れてきて下さり、うどん打ちなども行うことができた。「自分たちはお客さんではない」との事で、ホームにいられた時には、一緒に洗濯物を畳んで下さる方もおられる。行事開催時の費用負担等についても、適宜、ご家族に相談し、意見を伺うようにしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全ての職員が参加する会議で意見や提案を聞く機会を設け、何らかの問題や課題が発生した時や困難事例等、その都度職員の意見を聞きながら対応を検討し運営に反映させている	開設当初からの職員も多い。ホーム長は日々の話し合いを大切にされており、職員同士が自由に意見を言うて頂ける環境を作ってくれた。ご本人の気持ちや行動の背景を知るために、本来どうすべきかを考える“粘り強さ”もついてきている。職員のアイデアは豊富で、毎月の行事も担当者が色々と考えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常から職員の勤務状況を把握し評価するだけでなく、各職員が目標チャレンジシートによって年間目標を設定しておりそれについても評価している。給与水準についても見直し行っており、やりがい向上心を持って働ける環境にすべく努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集、採用時は性別や年齢は採用の条件に含まず応募者の熱意や人間性、適正を重視している、働いている職員も個々の能力や適正、職種に応じて意欲を持つ事が出来る様配慮又資格合格者祝い金やリフレッシュ休暇など働きやすい職場環境に取り組んでいる	施設長と部長が母体施設で面接されているが、人間性と共に、“人の痛み”や“尊厳”を理解しているかも大切に、面接が行われている。職員全員が正職員であり、思いやりのある優しい職員が多く、それぞれの特技を日常生活の中で発揮頂いている。部長、ホーム長共に話しやすく、意見が言いやすい関係ができています。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する外部研修に参加したり内部研修を行うなど人権教育に取り組んでいる。利用者の人権を尊重する為、職員に対し日頃から態度や言葉使いに注意し介護にあたる様指導している（基本理念に人格の尊厳掲げている）	採用後オリエンテーションは母体施設で行われ、理念や守秘義務等、施設長が伝えている。日々ホーム長からも、「ご本人の真意を聞き取れるように…(尊厳)」と伝えており、常に“何故”と考える姿勢が身についてきている。職員自身が、自分で気づけるかどうか大切にされており、それが行動に結びつくような指導が行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標チャレンジシートを使って自身の勤務年間目標を立て、その実践を評価している。又職員の立場や経験、習熟度に応じて外部研修に参加し研修内容の共有化・法人内の研修参加、日々の介護の中で助言、指導行い育成に努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研修会や他の事業所見学、在宅地域予防リハ状況見学、地域の方を交えてのグループホーム内研修会に参加したり入居者を交えての交流などを通じてネットワーク作りサービスの質の向上に向けて取り組んでいる		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	身体状況、医療、家族状況の情報と共にこれまでどのような暮らし方をしていたのか本人の訴えを傾聴することを第1に心がけ、何を望み何が不安なのかじっくりと聞く体勢を大切にして信頼関係を築いていけるよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族に見学を勧め十分納得の上で利用して頂くようにしている。住まいが変わることや知らない人の中で生活していく事への不安や心細さを理解し職員が上手に関わりスムーズに馴染んで頂ける様支援している		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況など本人、家族、ケアマネ、、医師その他の専門職の意見や連携をとりながら必要な支援内容を見極めた対応している又、職員間で検討行っている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一軒の家族として一緒に出来る家事を行ったり今まで経験してきた生活感や要領を聞いたり、利用者同士でも出来る方が身体の不自由な方を助けようとするなど寄り添い支えあう関係が築けるように支援している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会で一緒に楽しんだり、過ごす時間を設け、又家族のニーズや家族によるボランティア行事等家族と共に支援していく関係作りを大切にしている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人・友人が面会や電話などいつでもしやすい雰囲気作りをしており又家族の協力などで友人に会いに行かれる事もあり町内の催しへの参加など地域とのつながりを支援している	普段の会話の中で昔話を聞いたり、ご家族からも馴染みの方等の把握に努めている。お部屋で電話ができるように、子機を利用頂いたり、手紙が読めない方にはゆっくりと手紙を読んでさしあげている。日頃の買い物で知り合いの方にお会いすることもあり、遠慮なく来訪して頂けるよう、声かけを行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を理解して仲の良い利用者同士と一緒に座って頂けるように配慮したり、職員が中に入り共通の話題を提供するなど支えあう関係作りを支援する事を心がけている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて連絡を取り、他の在宅・施設サービスを紹介したり、本人や家族の相談に応じる事などに努めている		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方らしく生活して頂く為に本人や家族の希望の傾聴、今までの生活歴、現在の状況を常に職員同士話し合い、意志の把握、意志の尊重に努めている	ご利用者が大切にされている生活習慣やルール等があり、日常の中で“格言”のように話して下さる。その個別のルール等を職員は大切にされており、記録にも残している。センター方式を使用したアセスメントにも、ご本人やご家族から伺った情報が残され、思考展開シートを使った課題分析の取り組みも始められた。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し利用者個々の生活歴やなじみの人場所の把握に努めている。また家族の面会時などこれまでの状況なども聞いており理解出来る様に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の過ごされ方や心身状況をケース記録や連絡ノートに具体的に記し職員全員が必ず目を通すようにしており、出来る事や出来ない事の把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で利用者状況など意見を出し合って定期的に家族と計画作成者、利用者の担当者を含めてカンファレンス行っており、本人・家族の意見や現在の状況など看護師や医師の意見など同意を得た上で計画を作成している	ご本人等の意向と共に、心身状況や役割なども含め、全職員で話し合いが行われており、ご利用者の担当職員を中心に介護計画が作成されている。いきいきサロンや地域行事への参加、音楽鑑賞、畑仕事、ご家族との外出なども盛り込まれている。3表も活用し、24時間体制の支援が明記されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活、変化などはケース記録に個別に記入している。気づき、様子、状態を一目で分かるようにしており職員間で情報を共有し問題点、困難事例の対策を立て実践し見直しなどに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常のコミュニケーションやカンファレンス、面会などを通して本人や家族の置かれている状況やニーズを随時把握するように努め地域密着型の利点を活かした柔軟な支援になるように取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会地域との連携や消防署立会いの避難訓練、各機関と協力しあっている。地域行事参加、ボランティアによる楽器演奏、演舞、家族ボランティアによる利用者参加の実演など支援行っている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1度協力医の往診が受けられる為家族の希望を聞き、支援している。協力医は適切な治療が出来る様に相談やアドバイス、検査などその時々でホーム職員や家族と適切な医療が受けられる様連携をとっている	23年3月に医療連携体制加算をとり、週1回、訪問看護師の来訪がある。以前から、医師も24時間相談できる体制もあり、職員の安心にもなっている。初診時や検査時には、ご家族に同席して頂いているが、職員が対応することもある。協力医から、職員とご家族に、詳しい検査結果を説明して頂いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護師の来援時や24時間訪問看護師との連携体制は出来ており、相談やアドバイスを受けている。又協力医の看護師や法人内の看護師からも相談アドバイスを受け、支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が面会に行き、状況の把握や本人の不安の軽減に努めている。又出来るだけ早く退院出来る様、主治医や看護師、ソーシャルワーカーなどと情報交換行うようにしており、関係づくりを行っている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針や訪問看護師と協力医との連携体制を作って家族に説明行っている。現在1名の方はホームでの看取りを希望されている	「(最期は)在宅で・・・」との希望で、看護師と在宅の担当ケアマネとも情報交換を行い、退居された方がおられる。23年から医療連携体制をとり、医師、看護師との連携を図り、適切な対応により安心して生活頂ける体制を整えている。アンケートも行き、終末期の希望も確認しているが、ご本人と職員がテレビを見ながら、最期の場面(意向)を話す関係もできている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度、法人全体で消防職員立会いで救急救命講習を行っており、ホームの職員も全員でAEDの使い方や人工呼吸、心臓マッサージのやり方を学び、急変や事故発生に備えている。又法人や訪問、協力医の看護師から医療知識の習得を行っている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いで定期的に避難訓練を行っており、消火器や通報装置の設置場所・誘導・避難経路・場所を把握している。自動での緊急火災通報装置やスプリンクラーも設置しており、地域の分団所には電話がない為、自治会長が地域の分団員へ連絡してくださるようになっている	地域の方との連携もとれており、地域の防災無線の確認も行われた。22年8月には、職員・ご利用者・ご家族・消防署職員と一緒に夜間想定で訓練を行い、消火器の使用の仕方も訓練した。23年2月には、職員とご利用者で昼間想定で訓練を行っており、避難場所の把握もしている。災害時に備え、水や食料も準備されている。	
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員、利用者に対する「人格の尊重」を基、言葉かけに気を配り、常に傾聴する姿勢を心がけている。個人情報の取り扱いには十分に配慮し、記録などの書類は、職員室で管理されている。雇用契約時に職員から個人情報保護に関して誓約書を取っている	その方らしい生活ができるように、職員間の情報を共有し、寄り添ったケアを行うよう指導している。ご利用者の自尊心を大切にされており、自分でできなくなっていることの辛さにも寄り添い、トイレの場所を迷われている時の声かけにも配慮している。記録物の持ち出しは禁止し、重要書類などは鍵のついた保管場所に入れている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々のコミュニケーション能力を把握して、それに応じた個別ケアの提供により本人が意志や希望を表しやすく、満足した自己決定が出来る様に支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが利用者の意思や体調を最優先に考え、一人ひとりの生活時間に合わせて個別に対応している。朝から外に出たり家族との外出を楽しんだり、本人の希望を引き出し実現するように支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	あさの洗面・整容介助は欠かさずに行い、化粧される方のケアの介助、又更衣時や入浴用意時は本人に選んで頂く様に声掛けを行っている。又家族による支援や理美容師が2ヶ月に1回来援し、カットや白髪染めなど個別に対応している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個人の能力や好み希望を取り入れ、栄養士の意見を聞いて献立作成している。色々な食事の楽しみが得られるよう工夫を行い、利用者と職員と一緒に楽しみな時間が持つ事出来る様に支援している	畑仕事が好きなお利用者もおられ、地域の方も協力して頂き、トマト、きゅうりなどの新鮮な食材が使われている。ホットプレートでお好み焼きをしたり、ご家族と一緒にバイキングも楽しんでいる。職員(1名)も一緒に食事をしているが、長年の習慣で“食事は静かに・・・”と言う方が多く、食材そのものを味わって食べる時間となっている。	“食事を楽しむ”ために、季節の新鮮な食材を使用し、家族会では和やかに回覧されている。お茶会やそうめん流し、手打ちうどん作りなども楽しんでいるが、今後も引き続き、全てのご利用者にとっての“楽しい食事時間”の検討を続けていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士や訪問看護師、協力医のアドバイスをもらいながら支援している。水分に関しては定期的な水分補給や個人に配慮した水分提供と一日の水分のチェックを行っている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは出来るだけ本人に行ってもらおうようにしているが職員が補助する事もある。訪問歯科による定期的なケアや指導で個別に対応支援している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗がないよう、又安易なオムツ使用をせず安心して排泄が出来る様に入居者ひとり一人のADLや排泄行動、サインを把握して個々に声掛け、トイレ誘導、介助を行っている。	排泄は自立の方が多。ご利用者個々の排泄リズムを把握し、排泄で介助が必要な部分の把握も行いながら、トイレでの支援を行っている。スポンの上げ下げが自立できるように、衣類やパッドの工夫を行うことで失禁もなくなり、日中は完全に布パンツで過ごせるようになった方もおられる。おむつゼロを目指されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分が取れるように個々人の水分量をチェックしたり繊維野菜を多く取り入れ、体操や歩行訓練など適度な運動もとりにいれている、又お茶が嫌いな方には好きなコーヒーやゼリーなどその方に合わせた予防に取り組んでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日を除いて、毎日、午後入浴としているが体調に配慮しながら本人の希望に合わせて対応している。拒否される入居者には本人が納得できるように声掛け行い入浴していただいている	毎日入浴される方もおられ、ミカン・かぼす・柚子風呂や菖蒲湯を行い、季節感を感じて頂いている。一人ひとりゆつくりと誘導し、お風呂の中では会話を楽しませている。歌を唄われる方もおられ、安心した入浴になるよう支援している。拒否が見られる場合には、温泉の話等をしなが、入浴気分になって頂くこともある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の生活習慣やその日の体調を把握・観察して休息が必要と考えられる時は自室にて安心して横になって頂いたり夜も静かな環境作りを心がけて安眠できるように心がけている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況を確認できる資料を作成しており、職員はその内容を理解している。本人の変化に応じて主治医や薬剤師に服薬内容の変更などについて相談している		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や楽しみを日々の生活に活かせる支援している。ふき掃除・掃除機がけ、洗濯物たたみや野菜の皮むき、又外での草取りなど得意な分野を発揮する場面を作っている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に出かける楽しみの重要性を職員は認識しており、天候や体調に配慮しながらドライブや買い物、散歩また季節を感じられる行事や風景の見物に行ったりしている。又、家族や地域の方の協力を頂いている	人と人との繋がりを大切にされており、スーパーや地域行事、祭り、神社など、以前生活されていた場所への外出を月行事に入れている。馴染みの方とお会いする機会にもなっている。ご家族の協力で、陶器見学や美術品見学、高塚地蔵参りなどにも行かれており、ご家族と一緒にイチゴ狩りにも行かれた。これからも、季節に応じた(リンゴ狩りなど)外出を企画していく予定である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じてお金を所持してもらっている。又金銭の管理が困難な入居者については事業所で預り、買い物など同伴して自由に使ってもらえるように支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話をつけている方はご自由にかけたいと希望された場合は電話の子機を居室に持って行き気兼ねなく話ができる様に心がけている。また手紙についても		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やリビング等ホーム内は、明るく広々として天井も高い。リビングにはソファ、廊下には椅子を配置し、リビングからは広庭が見渡せて季節が楽しめ又季節の絵を飾り、家庭の雰囲気心がけている。浴室、トイレは衛生面に留意し、清潔で、居心地良く過ごせるよう配置している	日差しを防ぐために、ウッドデッキには日よけが取り付けられており、自動開閉できる。温湿度計を毎回確認し、適宜調整もされている。ゆったりと動きやすいようにソファなどの配置にも配慮し、トイレやお風呂、リビング等の衛生面にも気を配っている。リビングには、季節の絵やご利用者が書かれた習字や塗り絵などを飾っており、一緒に掃除をしたり、庭の草取りを手伝って頂いている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はゆったりとくつろいで過ごせるようソファや椅子を広く配置し、又玄関、廊下の中ほど奥にはベンチがあり、気の合った方同士がくつろいで会話や休憩ができる場所があり思い思い過ごされる		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の状態や好みに合わせ、使い慣れた寝具、家具や思い出の品物、好みの置物・飾り物など飾り、本人が居心地良く過ごせるように工夫している	和洋室があり、思い思いのお部屋になっている。手作りのパッチワークや趣味の道具などが置かれ、テレビや化粧品ケース、電話などがお部屋にある方もおられる。以前行かれていたお寺の写真を、ご家族がネットでプリントアウトし、お部屋に貼って下さった。その写真を見ながら会話が弾む事も多く、安心できるお部屋作りが続けられている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの理解力に応じて、分かりやすいようにゆっくりと丁寧に声掛けするなど混乱や失敗のない自立した生活が送る事が出来る様に努めている。廊下、トイレには手すりを設置し居室記名やトイレなどには案内かけている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名: グループホーム陽楽

作成日: 平成 23 年 10 月 24 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		公民館活動や地域清掃などに、ご利用者が参加しているが今後更に、ご利用者の力を発揮できる取り組みの検討	地域貢献	地域行事への参加 交流の機会の確保	6 ヶ月
2		食事を楽しむ為に季節の新鮮な食材やご家族と一緒にのバイキング、お茶会、そうめん流し、手打ちうどん作り等楽しんでいるが長年の習慣で食事は静かに・・・という方が多く食材そのものを味わって食べる時間となっている	すべてのご利用者にとって楽しい食事時間になる	すべての利用者の習慣の把握 本人様、ご家族からの食事メニュー、好みについてアンケートや聞きとりを行い検討する	3 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月